

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 夢の樹
施設名	ろばのこ保育園
報告者（役職）	前田 泉穂 （ 園長 ）
住所・連絡先	大阪府堺市北区百舌鳥梅町1丁16-1 TEL 072-230-4417 E-mail yumenoki@robanoko.jp

○タイトル

大ホールで楽器演奏会

○主な助成備品

卓上木琴、木琴スタンド（各30台）

1. 保育計画策定の目的

ろばのこ保育園は、平成25年4月より開園した120名定員の保育園です。開園の際、たくさんの備品が必要となりましたが、重要な備品（おもちゃ、画用紙、児童ロッカー、衛生用品等）に運転資金を使い、楽器等を購入できずにいました。子どもたちのため何年後かに購入を考えていたところ、保育所等助成制度があることを知り、もし、楽器を手に入れることができれば、子どもたちにとってすばらしいものになると考えたのが最初の動機です。

当園では、子ども達の心と身体の成長をねらいとして、歌や合奏、リトミック等を積極的に取り入れています。歌やリトミックは先生のピアノが1台あれば事足りることですが、合奏は、一人ひとり楽器を使う必要があり、使う楽器の音や響きが良い楽器であればあるほど、心に伝わるものだと感じています。その楽器のすばらしさを子どもたちに知ってほしいという願いがあり、できるだけ良い楽器を使ってすばらしい演奏をしてほしいという願いから大ホールでの発表会の計画を考えました。また、すばらしいホールで子ども達が奏でる演奏を保護者や地域の方々に聴いてもらえたら、ひとときの安らぎを提供できるのではないかと考えました。

2. 具体的な実施内容

＜木琴を始める前に＞

手でリズムをとる練習からはじめました。初めて木琴をたたく子や何もわからずにたたく子がいるので、木琴をたたく前に、リズムを覚えることにしました。リズムを何度も練習することにより、音楽の中の簡単なリズムがわかるようになってきました。

「タン・ウン・タン・タン」、「タ・タ・タ・タ・タン・タン」

「タッカ・タッカ・タン・タン」、「ターアー・タン・タン」等

次に、バチ（木琴で音を鳴らす際に使う棒のようなもの）を使って、紙で作った木琴を利用して練習しました。あまり強くたたかず、優しく手首を使ってたたくことを教え練習しました。あまり強くたたくと良い音がでず、木琴も痛める可能性もあるので、やさしくたたく練習をしました。子どもたちは、練習を重ねるごとに、少しずつたたき方やたたく場所もわかってきました。

<木琴の練習>

木琴をたたく前に、4月からリズムや紙の木琴で練習し12月ごろから木琴をたたく練習を始めました。練習した曲は「にじのむこうに」です。リズムやたたき方等を練習したおかげで、スムーズに練習することができました。



3. その成果と評価

開園2年目を向かえ、第一生命財団様の助成を知り、この助成で木琴を手に入れることができたらと思い応募したところ、見事、助成決定通知が送られてきました。すぐに、木琴を注文し、ピカピカの木琴が保育園に来たときは、とても感動したのを覚えています。

木琴は、4歳児クラスが使用する楽器として使いました。今まで、4歳児が園で使用している木琴（右図）は、黒鍵盤が付いていません。また、練習すればするほど、鍵盤のコーティングがはがれ、音階がとれなくなるような木琴でした。新しい楽器を見た子どもたちは、生き生きと練習しており、本当に楽しそうでした。音色も良く、鉄琴にも負けないくらい良く響く音なので、合奏した時には鳥肌が立つほどすばらしかったです。



一番の目的であった、発表会の演奏も平成28年2月28日（日）に無事終了しまし

た。堺にあるソフィア堺の大ホールでの発表会で、保護者、その他関係者が約 300 人集まりました。4 歳児は練習してきた「にじのむこうに」を演奏しました。会場もすばらしかったので、きれいな音色もより一層際立って聞こえてきました。



全体合奏では、1 歳児はマラカス、2 歳児は鈴、3 歳児は各種楽器（タンバリン・鈴・トライアングル・太鼓、シンバル等）、4 歳児は、応募させていただいた木琴を、5 歳児は鍵盤ハーモニカを使い、全員で合奏しました。

みんなが良く知っている曲ドレミの歌に合わせて演奏し、発表会のオープニングでこの合奏をしました。発表会後のアンケートでも木琴の音が良く聞こえたとお声がありました。



子どもたちに、良い音で演奏して欲しい、すばらしい楽器を使って欲しいという願いが、こんなにも早くかなえることができるとは思ってもみませんでした。

保育園も開園したばかりのことなので、子どもたちに楽器の演奏がどのような影響があるのか、今のところ結果はでていませんが、今後、音楽に興味もてる子が増えることを願っています。

4. 今後の課題と展望

これから、何年も使えるように、また、いろんなことに使っていけるように、大切に使いしていきたいと思っております。もっとたくさんの方々に木琴の音色を味わえるように、さまざまな企画を考え提供していけたらと思っております。音楽に興味もつ子どもが一人でも多く育つことを期待して、今後も、発表会を中心に進めていきたいと考えています。

すばらしい木琴、本当にありがとうございました。

以上